

# 大日本地震史料

卷之三

自正平十三年  
至延德三年

正平十三年北朝延文三年一月二十六日乙丑、京都地震フ、

〔愚管記〕

延文三年正月廿六日乙丑、晴、今曉地震、

二月二日辛未、京都地震フ、

〔愚管記〕

二月二日辛未、晴、今曉地震、

同月十一日庚辰、京都地震フ、

〔愚管記〕

十一日庚辰、晴、辰刻地震、

三月十七日乙卯、京都地震フ、

〔愚管記〕

三月十七日乙卯、晴、今曉地震、

四月十四日壬午、京都地震フ、

〔愚管記〕

四月十四日壬午、晴、巳刻地震、

五月二十四日壬戌、京都地震稍、強シ、

〔愚管記〕

五月廿四日壬戌、陰、午刻地震、水神動云々、頗有聲、

〔歷代皇記〕

延文三年五月廿四日、大地震、

〔續史愚抄〕

正平十三年北朝延文三年五月廿四日壬戌、大地震、武家年代記

六月二日己巳、京都地震フ、

〔愚管記〕

六月二日己巳、陰晴不定、時々降雨、酉刻地震有聲、龍神動云云、

七月十五日壬子、京都地震フ、

〔愚管記〕

七月十五日壬子、晴、未刻許地震、

九月四日庚子、京都地震稍、強シ、

〔愚管記〕

九月四日庚子、晴、今曉寅刻地震、龍神動云々、

〔園太曆〕

延文三年九月四日、天晴、今曉卯刻許地大震、近來無比類之由、諸人稱之、

十一月十八日癸丑、京都地震フ、

震災豫防調查會報告第四十六號

甲

〔愚管記〕

十一月十八日癸丑、陰、戌刻地震、

同十四年北朝延文四年六月三日甲子、京都地震フ、

〔愚管記〕

延文四年六月三日甲子、天顔快晴入夜陰小雨、巳刻地震、金翅鳥動云々、

十月十八日戊寅、子刻京都地震フ、

〔愚管記〕

十月十八日戊寅、晴、子刻地震有聲、

同十五年北朝延文五年二月一日己未、京都地震フ、

〔愚管記〕

延文五年二月一日己未、晴、申刻地震、

二月七日乙丑、是夜、京都地震フ、

〔愚管記〕

二月七日乙丑、自曉更雪降即屬霽、夜半許地震、

同十六年北朝延文元年一月二十三日乙亥、戌刻京都地震フ、

フ、

〔愚管記〕

延文六年○康安元年正月廿三日乙亥、戌刻地震、

六月二十一日庚子、京都地強ク震フ、

〔後愚昧記〕

延文六年○康安元年六月廿一日庚子、酉刻地大震、近來更無如此之事、消肝了、

〔愚管記〕

六月廿一日庚子、時々小雨下、酉刻地大震、

〔康富記〕文安六年四月十三日條

康安元年六月廿一日、大地震、

〔忠光卿記〕

□□□□□□□予、基數朝臣、賀茂□少少祇候、有御鞠、酉刻於南殿御拜之間也

大地震、鳴動失魂、則給女房御文、遣有世朝臣□占文注進之、

龍神所動歟、可驚々々、後聞、今曉北野神殿鳴動、參詣之輩怖恐云々、

○本書此條蠹食シテ日ヲ失フ、然レドモ次條ハ六月二十二日ノ記ナレバ、二十一日ノ記事タルハ明カナリ、

同月二十二日辛丑、京都地強ク震フ、是日、大和

モ亦震フ、明日京都又頻ニ震フ、

〔後愚昧記〕

廿二日辛丑、卯刻地又大震、如昨夕、連日大動、先代未聞事也、可恐々々、相尋大膳太夫親宣安部朝臣之處、占文進之、龍神

也、可恐々々、相尋大膳太夫親宣朝臣之處、占文進之、龍神

(所カ) 不動云々、占文之面、事之不輕、可恐々々、近日武家重人等各

不知云々、天下重事出來之地也、去貞和五年六月地震儀、不  
(和カ)  
及今度、後年故直義卿與師直合戰出來、今度又言如然事出  
來也、可恐々々、

廿三日壬寅、今日又度々地動、不及昨日一昨日兩度、  
(愚管記)

廿二日辛丑、雨降、今曉卯刻大地震、其後大小動相續不休、可  
恐々々、半更大動兩度、

廿三日壬寅、時々小雨、今曉卯刻又地大震、其後小動兩三度、  
(忠光卿記)

六月廿二日辛丑、晴、寅時大地震、水神所動云々、  
廿三日壬寅晴、地震及度々、頗匪直也云々、

(嘉元記) 大和法隆寺藏本

康安元年辛丑六月廿三日、地震、

(武家年代記裏書)

延文六年六月廿二日、地震、天王寺金堂倒、○和漢合符同シ、

○天王寺金堂倒ル、ハ二十四日ナリ、本書及ビ下條如是院年代記、高野春秋、  
並ニ誤レリ、

(如是院年代記)

康安元年六月廿二日、地大震、天王寺金堂倒、

(高野春秋)

辛丑六月廿二日、俄大雪降積、天王寺金堂亦傾倒之、

(參考)

(參考太平記)

六月二十二日 金勝院本作 二十三  
日、俄ニ天カキ曇雪降テ、氷寒ノ甚シキ事、冬至ノ前後  
ノ如シ、酒ヲ飲テ身ヲ煥、火ヲ燒爐ヲ圍ム人ハ、自寒ヲ禦ク便モアリ、山路ノ  
樵夫、野徑ノ旅人、牧馬林鹿悉ク氷ニ閉ラレ、雪ニ臥テ凍死スル者數ヲ知ズ、  
○六月降雪ノコト、當時公卿ノ日乘ニ見エズ、遠ニ信ヲ措キ難シト雖ド  
モ、本書及ビ諸書ニ散見スルニヨリ、暫ク記シテ疑ヲ存セリ、

同月二十四日癸卯、攝津、大和、紀伊、阿波、山城諸  
國、地大ニ震ヒ、攝津、阿波、海嘯ヲ颺ゲタリ、

(後愚昧記)

廿四日癸卯、曉寅刻卯也又大地震、眞實消魂了、如此連日大  
震、其例何年ニ哉、

裏書

正和以後有如此事哉、日々有動之時、及密奏哉之由、召尋  
親宣朝臣之處、返事云、

正和六年 元年 文保 正月五日大地震、其他小動度々、其時も龍

神水神動也、件年伏見院崩御也、其外如此大小動連續事、  
無先例云々、今曉も水神動也、超過正和了、廿一二兩日爲  
同事候間、別而不及占文云々、正和には四日六日なども小  
動也、大動は二ヶ度也、今度は大動五ヶ度、小動不及勝計

云々、又連續之時、不及密奏云々、

後聞、依今曉大地震四天王寺攝州金堂顛倒、成微塵了、又大塔空輪落塔傾口云々、伶人一人、承仕二人、在廳二人壓死云々、先代未聞珍事也、此事、天王寺執行孝順注進京都云々、當別當梶井奏聞云々、當時彼寺爲南方之陣内、當方不及管領也、

〔愚管記〕

七月三日壬子、晴、傳聞、去月廿二日同廿四日大地震之時、熊野社頭並假殿以下三山岩屋以下秘所秘木秘石等、悉破滅之由、三山注進云々、未法之至極歟、河内國以甚、天王寺金堂顛倒云々、

〔忠光卿記〕

廿四日癸卯、晴、今曉寅刻大地震、殊以甚、□□所動也云云、

廿六日乙巳、晴、傳聞、天王寺金堂、去廿四日寅時顛倒、地動之故云々、佛法最初之□□□□太子御作之梵宇、一時破滅、可嘆々々、委細猶可尋記、

〔春日若宮神殿守記〕

康安元年此六月十六日間ヨリ大ナエユル、同七月廿九日夜マデユル、コノアキタニ春日山ウチノソウノ石トウロミナユ燈籠ノ倒揺リタラス、マタ所々ノタウタウヲモユリタラス、天王寺ノ御舍利塔頓造シヤリタウヲモユリタラス、其後ヤカテツクル、

〔康富記〕

康安元年六月廿五日、○廿四日ナリ、天王寺金堂爲地震顛倒、

九月八日 尊星王法、

同十四日 熾盛光法被修也、共地震、御祈也、

〔大乘院日記目錄〕

六月十八日ヨリ十月十八日至、大地震、

〔嘉元記〕

康安元年辛丑六月廿四日、地大震、佛閣多壞、

〔皇年代略記〕

康安元年六月廿日、大地震、其以後連續大地震、金堂並南都堂舍已下依地震顛倒、○皇年代、私記同シ、

〔歷代皇紀〕

康安元年六月以後、連々大地震、天王寺金堂以下諸寺塔院、多以破損、

〔參考太平記〕

正平十六年六月十八日巳刻ヨリ皇年代略記作二十日、同十月ニ至ル迄、大地震シク動テ、日々夜々ニ止時ナシ、山ハ崩テ谷ヲ埋ミ、

海ハ傾テ陸地ニ成シカバ、神社佛閣倒レ破レ、牛馬人民ノ死傷スル事、幾千萬ト云數ヲ知ズ、總テ山川江河林野村落、此災ニ遭ズト云所ナシ、皇年代略記云、康安元年六月二十日大地震、其以後月以後連々大地震、天王寺金堂以下諸寺塔院多破損云々、連續、金堂並南都堂舍已下顛倒、歷代皇紀又云、六月以後連々大地震、天王寺金堂以下諸寺塔院多破損云々、中ニモ阿波ノ雪後患味記云、六月二十日酉刻大地震云々、

湊ト云浦ニハ、雪金勝院俄ニ大山ノ如ナル潮漲來テ、在家一  
千七百餘宇悉引潮ニ連テ、海底ニ沈シカバ、家々ニ有所ノ僧  
俗男女、牛馬鶏犬、一ツモ殘ラズ底ノミクヅト成ニケリ、○中  
略

(六カ)

又八月廿四日ノ大地震ニ、雨暴ク降、風烈ク吹テ、虚空姑クカ  
キクレテ見ヘケルガ、難波浦ノ澳ヨリ大龍ニ浮出デ、天王  
寺ノ金堂ノ中ヘ入ト見ヘケルガ、雲ノ中ニ鏑矢鳴響テ、戈ノ  
光四方ニヒラメキテ、大龍ト四天ト戰フ體ニゾ見ヘタリケ  
ル、二ッノ龍サル時、又大地震シク動テ、金堂微塵ニ碎ケリ、  
サレドモ四天ハ少シモ損ゼサセ給ハズ、北條家西源院南都本云、京  
中鄰國ニハ天龍ノ戰トハ  
知ズ、亦只地震ト  
ヅ申ケル云々、是ハ何様聖德太子御安置ノ佛舍利、此堂ニオ  
ハシマセバ、龍王是ヲ取奉ラントスルヲ、佛法護持ノ四天王  
惜マセ給ヒケルカト覺ヘタリ、洛中邊土ニハ傾カヌ塔ノ九  
輪モナク、熊野參詣ノ道ニハ、地ノ裂ヌ所モ無リケリ、舊記  
ノ載ル所、開關以來、懸ル不思議ナケレバ、此上ニ又何様ナ  
ル世ノ亂ヤ出來ンズラント、懼恐ヌ人ハ更ニナシ、

〔參考〕

〔和漢合運〕

康安元年辛丑七月廿四、難波浦數百町水枯、又大雪如山、  
(鹽カ)

○七月ニ非ズ、六月ナリ、下同ジ、

〔參考太平記〕

七月二十四日ニハ、攝津國難波浦ノ澳數百町、半時計乾アガリテ、無量ノ魚  
ドモ沙ノ上ニ息ツキケル程ニ、傍ノ浦ノ海人共、網ヲ卷釣ヲ捨テ、我劣ジト拾

ケル處ニ、又俄ニ大山ノ如クナル潮滿來テ、漫々タル海ニ成ニケレバ、數百  
人ノ海人共、一人モ生テ歸ルハ無リケリ、又阿波鳴戸阿波、毛利家、金勝院、  
西源院、天正本、作ニ周  
防、按阿波周防  
共有ニ鳴戸、  
俄ニ潮去テ陸ト成ル、○下  
略

〔南方紀傳〕

七月廿四日、難波浦水枯數百町、又周防海中出ニ大鼓、

〔大日本史〕

七月二十四日癸酉、難波浦海溢、死者數百人、阿波鳴戸潮涸、有巨鼓見石上、

太平

記

〔阿波志〕

災祥

康安元年辛丑七月二十四日地大震、難波海溢、鳴門潮涸、

海部郡

雪池(八九)  
在東西由岐村間、康安元年地大震、海湧、闔村蕩盡、自六月十六日地震、  
至十月、地裂爲池、長二百二十步、徑百步、見太平記、正德中以四分爲西  
村、六分爲東村、每風濤起、  
村民置船于此

同月二十五日甲辰、京都地數、震フ、

〔後愚昧記〕

廿五日甲辰、今日地震又及度々、

〔愚管記〕

廿五日甲辰、雨降、地震兩三度、但非大動、

〔忠光卿記〕

廿五日甲辰、晴、小地震及度々、

同月二十六日乙巳、京都地震、明日又震フ、

〔後愚昧記〕

廿六日乙巳、今日又地震、

廿七日丙午、今日又地震、

〔愚管記〕

廿六日乙巳、雨降、自午刻屬霽、地震兩三度、但非大動、

廿七日丙午、天晴、未刻地震、

同月二十八日丙午、京都地震フ、

〔愚管記〕

廿八日丁未、晴、今日兩三度、

七月一日庚戌、京都地震フ、

〔愚管記〕

七月一日庚戌、時々雨降、朝間天晴、亥刻地震、

同月四日癸丑、京都強震、前月二十一日、二十四

日ノ二震ニ亞グ、尋デ觀心寺ニ修法ヲ命ジ、又熾

盛光法、尊星三法ヲ宮中ニ修メ、並ニ地震ノ厄ヲ

攘ハセ給フ、

〔愚管記〕

四日癸丑、晴、申刻地大震、戌一點又震、及半更又兩三度震

動、凡希代事也、

〔後愚昧記〕

七月四日癸丑、霽、申刻又大震、如此大動、去月廿一日夕、廿

四日、今日又也、及數日之條、可謂希有事也、

廿四日癸酉、天陰、地震有音大動也、

八月一日己卯、今日中地震、又及度々了、

〔觀心寺文書〕

〔袖判〕

爲地震御祈、一七日晝夜不斷可令修七星如意輪法者、天氣如此、悉之以狀、

正平十六年七月十日

觀心寺々僧御中

左少弁

〔妙香院宮引付〕

康安元年八月十三日、陰氣、但時刻屬晴了、

於禁裏、爲地搖天變等祈、始行熾盛光法、自十樂院御坊御出及深更者也、御

後遲參也、○以下其式ヲ載セタリ、今略ス、

〔後愚昧記〕

八月十三日辛卯、自今夜青蓮院宮○尊道法親王、於禁裏被修熾盛光法云々、地後伏見帝皇子

震之御祈也、彼法、此門跡代々被行來也、他門不修云々、古來ハ山門之中、雖非

彼門跡修之、而後鳥羽院以後、一向被付青蓮院了、

九月八日丙辰、自今夜被修尊星王法、阿闍梨聖護院宮、他門跡此法曾不行之、其

故也智證大師入唐衣傳受此法之外、他門更不傳之、山門東寺等更不知此法云々、

〔康富記〕

共地震御祈也、

〔參考太平記〕

聖護院覺譽法親王ハ、花園帝二間ニ御參有テ、九月八日ヨリ一七日尊星王法

ヲ修セラレケル、

西源院本云、聖護院覺譽法親王、二間御參有テ、後九月八日ヨリ一七箇日尊

星王ノ大法ヲ修セラレケル、其後怪瑞猶休ズトテ、禁裏ニ五壇ノ法ヲ行

ハレケル、

同月十一日庚申、大和國地震強シ、

〔嘉元記〕

七月十一日、地大震、

十一月十四日辛酉、京都地強ク震フ、

〔後愚昧記〕

十一月十四日辛酉、天霽、酉終大地震、

〔裏書〕

後日尋大膳大夫親宣朝臣之處、月行畢宿、天子大臣受福、又十一月動ハ、百日  
内兵亂云々、

同十七年北朝貞治元年五月十七日辛酉、京都、奈良地強ク

震ヒ、餘動日ヲ累ネタリ、

〔康富記〕

貞治元年五月十七日、酉半大地震經時刻、甚鳴動、如去年大

地震、及數日者也、同十八日地震數度、同廿日不動歟、至廿三

日、六月四日於内裏被行五壇法、地震御祈也、

〔大乘院日記目錄〕

貞治元年五月十七日已後、連々地震、

八月五日戊寅、京都地震フ、

〔愚管記〕

貞治元年八月五日戊寅、晴、午刻地震、

十月四日丙子、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

貞治元年十月四日丙子、天晴、今夜丑始地震、

同月十一日癸未、京都地震フ、

〔師守記〕

十一日癸未、天晴、聊風吹、今曉卯刻地震、

同月二十四日丙申、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

廿四日丙申、天晴、入夜丑刻許地震、

十一月十九日庚申、京都地震フ、

〔師守記〕

十一月十九日庚申、天晴、午刻地震、

同月二十二日癸亥、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

廿二日癸亥、天晴、今夜戌刻地震、

同月二十八日己巳、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

廿八日己巳、〔頭書〕天晴、入夜子刻許地震、

十二月二日癸酉、京都地震フ、夜又震フ、

〔師守記〕

震災豫防調查會報告第四十六號

甲

十二月二日癸酉、天晴陰、酉刻小雨降、入夜又小雨下、寅刻時  
時小雨不絶、今曉寅斜地震、今夜丑刻地震、

同月五日丙子、是夜、京都地震強ク震フ、

〔師守記〕

五日丙子、天陰雨下、未刻以後休、入夜丑刻大地震、

同月六日丁丑、京都地震フ、

〔師守記〕

六日丁丑、天晴、未刻小雨灑、無程休、今朝辰刻許地震、

同十八年北朝貞治二年閏一月十四日乙酉、京都兩次地震  
フ、

〔師守記〕

貞治二年閏正月十四日乙酉、天晴、朝間聊小雨、下則止、今日  
申刻地震、又酉刻地震、

同月十五日丙戌、是夜、京都二回地震フ、

〔師守記〕

十五日丙戌、天晴、申刻以後天陰雨降、入夜戌始地震、同刻又  
地震云々、

二月四日甲辰、京都地震強シ、

〔師守記〕

二月四日甲辰、天霽、今曉寅刻大地震、

同月十日庚戌、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

十日庚戌、天陰雨降、未刻未申方雷鳴兩三度聞、申刻以後屬  
晴、終日風吹、入夜風不絶、今夜丑刻地震、

同月十八日戊午、是夜、京都地震強シ、續デ又震  
フ、

〔師守記〕

十八日戊午、天陰、未斜以後降雨、終夜雨下、時々休、入夜戌  
刻大地震、無程又小地震、

七月十四日辛巳、京都地震強シ、

〔東寺執行日記〕

貞治二年七月十四日、天晴、大地震、

八月四日庚子、京都地震強ク震フ、

〔東寺執行日記〕

八月四日、卯刻大地震、

十一月九日甲戌、京都地震強ク震フ、

〔東寺執行日記〕

十一月九日、酉終大地震越常篇矣、



同十九年北朝貞治三年九月十一日辛未、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

貞治三年九月十一日辛未、今夜戌刻許地震、

同二十二年北朝貞治六年一月九日丙戌、京都地強ク震フ、

〔愚管記〕

貞治六年正月九日丙戌、陰及晚雨降、未刻地大震、

二月二日己酉、京都地震フ、

〔愚管記〕

二月二日己酉、朝間晴夕陰、午刻地震、

同月十六日癸亥、京都地震強シ、

〔愚管記〕

二月十六日癸亥、陰、終夜大風降雨、今曉寅時地大震、

五月十四日乙丑、京都地震フ、

〔師守記〕

貞治六年五月十四日乙丑、天陰、辰刻以後降雨、未刻以後雨

脚止、今日未刻地震、

六月十九日甲子、京都地震フ、

〔愚管記〕

六月十九日甲子、晴、今日有秋氣、凡今夏暑氣不甚、申刻地震

〔師守記〕

六月十九日甲子、天晴、今日申刻地震、

同月二十五日庚午、京都地震フ、

〔師守記〕

廿五日庚午、天晴、申斜地震、

八月十二日丙辰、京都地震フ、

〔愚管記〕

八月十二日丙辰、雨降、未刻地震、

〔師守記〕

八月十二日丙辰、天陰、終日雨下、酉刻以後雨脚休、入夜丑刻

已後雨下、巳刻地震、惡動云々、以外也、

同月二十一日乙丑、京都地強ク震フ、

〔愚管記〕

廿一日乙丑、陰、辰初點地大震、

〔師守記〕

廿一日乙丑、天晴、未刻降雨則止、今曉卯刻大地震、吉動云

云、神妙々々、

同二十三年北朝應安元年一月十八日庚寅、京都地震フ、

〔愚管記〕

貞治七年應安元年正月十八日庚寅、晴、申刻地震、

閏六月六日乙亥、京都地震フ、

〔愚管記〕

閏六月六日乙亥、晴、午刻地震、

同二十四年北朝應安二年七月二十七日己未、是夜、京都地

強ク震ヒ、東寺講堂傾ケリ、

〔後愚昧記〕

應安二年七月廿七日、今夜丑刻許有大地震、親宣朝臣勘文、

後日見之、今日星宿也、金翅鳥動也、所注、兵革、又臣下謀上、

國主失地等也、

〔愚管記〕

應安二年七月廿七日己未、晴、今夜丑刻大地震、金翅鳥動云

云、

〔續史愚抄〕

正平二十四年北朝應安二年七月廿七日己未、今夜丑刻大地震、東寺

講堂傾危、陰陽師親宣朝臣、後日進勘文曰、爲金翅鳥動、臣謀

君、主失地兆也、異長者補任、後愚昧記、道嗣公記、

建德元年北朝應安三年八月二十八日甲申、相摸國鎌倉地

震フ、

〔空華日用工夫略集〕

應安三年八月廿八日四更禪起、自擇火焚香、讀楞伽經、時有地震、

同二年北朝應安四年三月十九日癸卯、是夜、京都地強ク震

フ、

〔鳩嶺雜事記〕

應安四年三月十九日、同夜戌刻大地震、凶云々、

八月二十六日丙午、京都地二回震フ、

〔愚管記〕

應安四年八月廿六日丙午、陰、入夜風雨甚、曉更地震、天明之

程又震、

同月二十七日丁未、京都地震強シ、

〔愚管記〕

廿七日丁未、陰、時々小雨、申刻地大震、

文中元年北朝應安五年六月二十七日癸卯、京都地震フ、

〔愚管記〕

應安五年六月廿七日癸卯、晴、未刻地震、

十二月二十四日丁酉、京都地震フ、

〔愚管記〕

十二月廿四日丁酉、晴、酉刻地震、

同二年北朝應安六年二月二日甲戌、是夜、京都地震フ、

〔愚管記〕

應安六年二月二日甲戌、晴、半更地震、

四月一日癸酉、是夜、京都地強ク震フ、

〔愚管記〕

四月一日癸酉、雨降、子刻地大震、

同月十二日甲申、京都地震フ、

〔愚管記〕

十二日甲申、時々雨降、未刻地震、

八月二十日己丑、京都地震フ、

〔愚管記〕

八月廿日己丑、晴、未刻地震、

閏十月二十二日己未、是夜、京都地強ク震フ、明

曉又震フ、

〔愚管記〕

閏十月廿二日己未、晴陰不定、時々小雨灑、戌刻地大震、曉更

地又震、

〔續史愚抄〕

應安六年閏十月廿二日己未、地大動、向曉亦動、道嗣公記、大乗院年代記、

天授元年北朝永和元年四月十四日甲辰、陸奧國會津地震強シ、

〔會津舊事雜考〕

永和元年四月十四日、大地震、

六月十一日庚子、京都地震フ、

〔愚管記〕

永和元年六月十一日庚子、晴、申刻地震有聲、天王動之由、有

世朝臣申之、

同月二十三日壬子、是夜、京都地震フ、

〔愚管記〕

廿四日癸丑、晴、及晚小雨、去夜戌時、地震有音、水神所動云

云、

同二年北朝永和二年四月二十五日己酉、京都地震強シ、

〔康富記〕

永和二年四月廿五日、大地震、

六月廿一日、自今日副官等日參本官、依天變地動御祈也、

同四年北朝永和四年十月二十九日戊辰、京都地強ク震フ、

〔愚管記〕

永和四年十月廿九日戊辰、陰、時々小雨灑、未刻地大震、

天授五年、六年 弘和元年、三年 元中四年、六年

同五年北朝康曆元年十月九日壬申、是夜、京都地震強シ、

〔愚管記〕

康曆元年十月九日壬申、陰晴不定、丑刻地大震、

同六年北朝康曆二年四月十七日丁丑、京都兩次地震フ、

〔康曆二年愚記〕

四月十七日、子刻許地震兩度相續、然而非大動、

弘和元年北朝永德元年二月十六日壬申、京都地震フ、

〔愚管記〕

康曆二年永德元年二月十六日壬申、雨降、未刻地震、

四月二十日乙亥、京都地震フ、

〔愚管記〕

四月廿日乙亥、晴、未刻許地震、

五月二十九日癸丑、京都地震フ、

〔愚管記〕

五月廿九日癸丑、陰晴不定、時々雨灑、午刻地震天王動云々、

同三年北朝永德三年四月十九日壬辰、是夜、京都地震フ、

〔後愚昧記〕

永德三年四月十九日壬辰、今夜有地震、

同月二十四日丁酉、京都地震強シ、

〔後愚昧記〕

廿四日、雨下或降或止、

今曉有大地震、其音如鼓、其動如載車、近年如此之地震無之、

消肝者也、

五月一日晴、今夜武家佛眼法妙法院宮被行結願也、自去廿五日所始行也、地震祈禱云々、

同月二十六日己亥、京都地震フ、

〔後愚昧記〕

廿六日、晝程又有地震、水神動云々、但本文不相替廿四日云

云、守經朝臣返事、

同月二十九日壬寅、京都地震フ、

〔後愚昧記〕

廿九日、今日又地震、小動也、

元中四年北朝嘉慶元年十二月十九日乙丑、陸奧國會津地

強ク震フ、

〔會津舊事土苴考〕會津四家合考所載

嘉慶元年丁卯十二月十九日、大地震、

同六年北朝康應元年九月六日辛未、京都地震強シ、晚ニ及

ビ又震フ、

〔宣御記〕

嘉慶三年○康應元年九月六日、晴、午一點大地震、又及晚地動、可恐々々、

同八年北朝明德二年十月十六日己巳、京都地強ク震フ、

〔康富記〕 大地震近例、

明德二年十月十六日、大地震、

〔明德記〕群書類從所載

抑十月十六日午ノ刻ニ、大地振オビタゞシクシテ、路次往反ノ輩モ歩事ヲエズ、家内安座ノ人々モ、肝魂モ消許也、○下略

〔南方紀傳〕

元中八年十月十六日、地震、

〔續史愚抄〕

明德二年十月十六日己巳、午刻地震大動、金翅鳥動、刑部卿有言、

可有兵革、不可逾年者、南方紀傳、明德記、康富記追、

應永元年十二月四日己巳、京都地震フ、

〔鈴鹿家記〕

應永元年十二月四日、丙午ハ己巳午、辰上刻地震、ノ誤ナリ、

同二年二月二十五日己丑、京都兩次地強ク震フ、

〔東寺年代〕

應永二年二月廿五日、朝卯刻大地震兩度、

同五年九月九日壬午、是夜、京都地震フ、

〔兼敦記〕

應永五年九月九日、亥刻有地震、

同月十一日甲申、是夜、京都地震フ、

〔兼敦記〕

十一日、亥刻有地震、

同七年八月十七日己酉、京都地震フ、

〔兼敦記〕

應永七年八月十七日、卯時地震、消肝了、水神所動、

十月二十四日乙卯、是夜、伊勢國地強ク震フ、同

夜、京都モ亦震ヘリ、

〔兼敦記〕

十月廿四日、今夜戌刻地震、或仁云、於勢州以外之大動云々、

京都少動也、

同八年十月二十七日壬午、京都地震フ、

〔永助法親王記〕

應永八年十月廿七日、及申斜有地震、

同九年一月二十九日癸丑、京都地震強シ、

〔吉田家日次記〕

應永九年正月廿九日、今曉寅刻大地震、龍神動也、天變地妖

相續、爲之如何、

是冬、京都地震フ、

〔南方紀傳〕

應永九年、冬、地震、

〔かな年代記〕

應永九年、冬、地しん、

同十年二月九日丁巳、陸奥國會津地震ヒ、翌月二

日マデ止マズ、

〔塔寺八幡宮略記長帳〕

應永十年、去暮ヨリ當三月迄大雪降、二月九日ヨリ三月二日

迄日々地震、

同月十五日癸亥、京都地震フ、

〔吉田日次記〕

應永十年二月十五日、申刻地震有動、

閏十月十九日癸巳、京都地震フ、

〔吉田日次記〕

閏十月廿一日、去十九日曉地震、龍神動、占文之趣不輕云々、

十一月三日丙午、京都地震フ、

〔吉田日次記〕

十一月三日、酉刻地震有動、

同十二年七月十四日丁未、京都地震強シ、

〔年代記殘編〕

應永十二年乙酉、七月十四日大地震、

九月十五日戊申、京都地震フ、

〔教言記〕

應永十二年九月十五日戊申、晴、地震、申刻、

同十三年十一月一日丁巳、是夜、京都地震ヒ、續

デ又兩次震フ、

〔教言記〕

應永十三年十一月一日丁巳、晴、戌時地震、又亥時兩度、

〔南朝紀傳〕

應永十三年冬十一月一日、大地震、○南方紀傳同シ、

〔かな年代記〕

應永十三年冬十一月一日、大地しん、

同十四年一月五日庚申、京都強震アリ、

〔荒曆〕

應永十四年正月五日庚申、晴、酉刻地震、近年無比類大動也、

〔教言記〕

應永十四年正月五日地震、酉一點、

〔和漢合運〕

應永十四年正月五日、大地震、

〔南朝紀傳〕

應永十四年春正月五日、大地震、

〔塔寺八幡宮略記長帳〕

應永十四年正月五日ヨリ大地震、二月末ニ漸靜ル、依之日本國、山崩塞川、磐石落野、地大ニ裂埋谷、神社佛閣、公家武家四民家倒、長壽院、二十三間堂、醍醐ノ七重塔婆倒、火災多シ、圓覺寺等燒失、○圓覺寺燒失ハ、是年十二月六日ナリ、且震災ノ爲ニ非ズ、長帳誤レリ、日本大騒動、又飢饉、  
○本書、京都ノ震害ヲ載セタレド、ソノ地ノ記錄ハ絶テ之ヲ記サズ、疑フベシ、

十二月十四日甲午、京都地震フ、

〔教言記〕

十二月十四日、地震、酉一點、

〔南朝紀傳〕

十二月十四日大地震、潮ヲビタシク湧出、

○本書、海嘯ヲ記シタレドモ、ソノ災地ヲ指示セズ、且他書ニ見ル所ナシ、疑フベシ、

同十五年一月二十八日戊寅、京都地震フ、

〔教言記〕

應永十五年正月廿八日戊寅、陰晴不定、地震、未一點、

十月十六日辛卯、京都晝夜二回地震フ、

〔教言記〕

十月十六日、地震晝夜ニ兩度、

同月二十九日甲辰、京都強震アリ、續震十四次ニ

及ブ、

〔教言記〕

廿九日甲辰、晴、今曉大地震、卯刻、以來十四度也、

十一月一日乙巳、京都地震フ、二日、三日、又震フ、

〔教言記〕

十一月六日、去一日二日三日地震者吉動之由、泰繼朝臣注進之、其已後少々不及沙汰云々、諸方御祈禱被行、珍重々々、  
○同月十日、足利義持、五壇法ヲ修メテ地妖ヲ禳ヘリ、

十二月十三日丁亥、京都地震フ、

〔教言記〕

十二月十三日地震、申刻也、

同十六年六月二十六日丁卯、京都地震フ、

〔教言記〕

應永十六年六月廿六日丁卯、晴、地震、未刻也、

應永十七年、十八年、十九年、二十年、二十六年

同十七年一月二十七日甲午、京都地震強シ、

〔南朝記傳〕

應永十七年春正月廿七日大地震、○南方紀傳同シ、

三月二十九日丙申、是夜、京都地震フ、

〔教言記追加〕

應永十七年三月廿九日丙申、晴、地震亥刻也、

同十八年五月六日丙寅、京都強震アリ、

〔和漢合符〕

應永十八年五月六日、夜大地震、

〔武家年代記裏書〕

應永十八年五、六、大地震、

七月二十四日癸未、京都地震フ、

〔應永十八年曆裏書〕

七月廿四日癸未、天晴、辰一點地震、

十月九日丁酉、京都地震フ、

〔應永十八年曆裏書〕

十月九日丁酉、天陰、寅時地震、

同十九年一月十三日己亥、京都兩次地震フ、

〔山科家禮記〕

應永十九年正月十三日、晴、卯刻地震、辰刻又地震、

同月十五日辛丑、京都地震フ、

〔山科家禮記〕

十五日、晴、未刻地震、

二月二十九日甲申、京都地震強シ、

〔山科家禮記〕

二月廿九日、陰、巳下刻大地震アリ、

四月十三日丁卯、是夜、京都地震フ、

〔山科家禮記〕

四月十三日、戌刻地震、

五月二十六日庚戌、是夜、京都地震フ、

〔山科家禮記〕

五月廿六日、夜半計ニ地震、

同二十年十一月十五日辛卯、京都地震強シ、

〔如是院年代記〕

應永<sup>癸巳</sup>二十、十一月十五日、地大震、

同二十六年五月九日癸丑、京都地震フ、

〔續史愚抄〕

應永廿六年五月九日癸丑、地震、金翅鳥動云、祭文抄



八月二十四日丙申、京都地震フ、

〔看聞御記〕

應永廿六年八月廿四日、酉刻有地震、金翅鳥動也、

同二十七年六月二十七日甲子、京都地震強ク震フ、

〔看聞御記〕

應永廿七年六月廿七日、晴、酉時有大地震、帝釋動也、

八月十日丙午、鎌倉強震アリ、

〔神明鏡〕

應永廿七年八月十日、鎌倉大地震十七度、

同二十八年七月、京都地震フ、

〔文書纂〕後鑑所載

爲地震御祈禱、於寺家可有其沙汰之由云々、自今月<sup>日</sup>廿二至廿

九日、可有勤修之由評了、

〔東寺百合文書〕

東寺講堂仁王經御讀經地震御祈着到、應永廿八年七月廿二日開

白、〇下

○コノ地震ノ日、ソノ傳ヲ失ヘリ、姑ク是月ニ係グ、

十月十三日癸卯、京都地震フ、

〔看聞御記〕

應永廿八年十月十二日、今夜(元ノマ)曉有地震、

十二月三日壬辰、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十二月三日、晴、曉有地動、

同二十九年十月一日乙酉、是夜、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十月朔、天晴、今夜丑刻有地震、帝釋動也、

同三十年三月、京都地震數次震フ、

〔年代記殘編〕

應永卅年癸卯三月、不絕地震、

十二月、京都地震數次震フ、

〔年代記殘編〕

應永卅年癸卯三月、十二月、不絕地震、

同三十一年四月二十五日庚午、是夜、京都地震

フ、

〔看聞御記〕

應永卅一年四月廿五日、今夜有地震、小動也、火神動也、

九月二十五日丁酉、京都地震フ、

〔看聞御記〕

九月廿五日、申時有地震、

震災豫防調查報告第四十六號

甲

〔兼宣記〕

應永卅一年九月廿五日丁酉、晴、地震、

同月二十六日戊戌、京都地震フ、

〔兼宣記〕

廿六日戊戌、晴、地震、

十月一日癸卯晴、依去月廿五六兩日地震、於諸社諸寺可有御祈禱之由、任何例可申沙汰之由、依室町殿仰申沙汰、自今日被始行者也、

同月二十七日己亥、京都又震フ、

〔看聞御記〕

廿七日、雨下、今曉又有地震、

十二月五日丙午、京都地震稍強シ、

〔看聞御記〕

十二月五日、雨下、卯刻有大地震、近比大動也、後有小動、

〔滿濟准后日記〕

應永卅一年十二月五日、降雨、地震、卯末刻、

同三十二年閏六月十七日乙酉、京都地強ク震フ、

〔看聞御記〕

應永卅二年閏六月十七日、雨降、今曉寅時有大地震、其後小動

有兩三度、諸鳥不合聲、龍神動也、是凶動也、占文種々凶事

也、〔頭書〕午刻又有小地震、

〔薩戒記〕

應永卅二年閏六月十七日乙酉、天晴、寅始地震二度、同終刻

又動、辰終刻又動、申終已後大雨雷鳴甚、將軍墓連々鳴、

〔兼宣記〕

應永卅二年閏六月十六日、晴、入夜小雨下、抑半更口程有大

地震、消魂者也、近比者不聽大動也、東山將軍塚同又鳴動、

七月一日戊戌、京都地數震フ、

〔看聞御記〕

七月一日、今夜寅時地震、此間每日有小動、

〔滿濟准后日記〕

應永卅二年七月一日、晴、今日地震、未刻、不快云、云、金翅鳥動、

〔薩戒記〕

七月一日、夜半過地震一度、

同月二日己亥、丑刻京都地震強シ、續テ又屢震

フ、

〔看聞御記〕

七月二日、亥刻夕立雷鳴只一聲如落消肝、丑刻大地震及數

度、去月十七日よりも大動也、恠異連續、天下有何事乎、恐怖

無極、

〔薩戒記〕

七月二日、入夜風雨烈雷鳴、丑刻地震三四ケ度、

〔滿濟准后日記〕

七月二日、今曉丑刻大地震、龍神動、不快云々、○本書、曉ニ作ル、他書ト合ハズ、

〔兼宣記〕

七月三日、去夜丑時、地震有音、○下略

同月三日庚子、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

三日、地動寅刻、

八月四日庚午、京都地震フ、

〔看聞御記〕

八月四日、晝小地震、帝尺動也、

同月七日癸酉、京都兩次地震フ、

〔看聞御記〕

七日、今夜丑刻地震有兩度、龍神動也、

九月、京都地震フ、

〔南朝記傳〕

九月、大風地震、

○南方紀傳ハ十月ニ係ケタリ、

十月二十四日庚寅、是夜、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十月廿四日、晴、亥刻有小地震、

〔滿濟准后日記〕

十月廿四日、亥初刻地動、天王動様、

〔薩戒記〕

十月廿四日庚寅、天晴、入夜陰、戌終小雨即休、更闌甚雨、亥終地震、

十一月五日庚子、京都強震アリ、築垣多ク損ゼ

リ、

〔看聞御記〕

十一月五日、巳刻有大地震、所々築地崩、以外大動也、火神動、占文不輕○下略

〔薩戒記〕

十一月五日庚子、天晴、巳終許大地震三動、暫之一度小動、又一度小動、凡終日鳴動、未後雨、入夜甚、○中略於院土御門三位有盛卿談曰、所々築垣等崩了、我所見及也、近來無如此大動云々、

〔滿濟准后日記〕

十一月五日、晴、大地震、水神動、占文不快、○下略

六日、晴、今日可出京由、以赤松越州被仰出、則參申入、昨日地動不快、御祈事如例方々可申遣云々、

〔兼宣記〕

震災豫防調查會報告第四十六號

甲

十一月五日、入夜甚雨、抑午一點大地震、以外大動、爲之如何、

今月五日、巳時大地震有音、略、○下

〔如是院年代記〕

應永卅二年十一月五日、大地震、

〔新選和漢合圖〕

應永卅二年乙巳十一月五日、大地震、

同月十日乙巳、是夜、京都又地震フ、

〔看聞御記〕

十日、子時地震有大聲、又火神動也、龜山將軍塚連々鳴動、天下恠異有何事哉、後聞、內侍所御神樂初時分、地震有兩度云云、

〔滿濟准后日記〕

十一月十日、晴、子時大地震、

〔薩戒記〕

十一月十日乙巳、子終刻地震、

同月十二日丁未、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十二日丁未、卯始刻地震、

同月十三日戊申、是夜、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十三日戊申、子終地震小動、

同月十六日辛亥、是夜、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十六日、戌時小地震、

〔薩戒記〕

十六日辛亥、天晴、戌刻地震、

同月二十二日丁巳、京都地震フ、

〔看聞御記〕

廿二日、辰刻小地震、

〔薩戒記〕

廿二日丁巳、巳始刻地震、

十二月十二日丁丑、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十二月十一日、丑刻有地震、金翅鳥動也、

○コノ地震ハ滿濟日記、薩戒記記載ト同一ノ地震ナリ、而シテ之ヲ前日ニ揭ゲタルハ、正確ナル時計ナキ時代ニ於テハ、往々免レ難キノ數ニシテ、時刻ノ推歩ヲ誤リタル結果ニ外ナラズ、コノ例頗ル多シ、

〔滿濟准后日記〕

十二月十二日、晴、今曉地震、天王動、吉動由、在方卿勘進在之、

〔薩戒記〕

十二月十二日丁丑、寅刻地震、巳刻又動、

同月十三日戊寅、是夜、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十三日、亥終許地震、

同月十六日辛巳、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十六日、今曉小地震、火神動也、

〔薩戒記〕

十六日辛巳、卯刻地震云々、

同三十三年二月二十二日丁亥、京都地震フ、

〔薩戒記〕

應永卅三年二月廿二日丁亥、申刻地震、

〔滿濟准后日記〕

應永卅三年二月廿二日、少雨、地震、天王動、吉動也、

五月四日丁酉、京都地震フ、

〔薩戒記〕

五月四日丁酉、巳始刻地震、

同月十三日丙午、是夜、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十三日丙午、亥刻許地震、

〔滿濟准后日記〕

五月十三日、降雨、小動、亥未刻、心宿也、天王動、吉動歟、

六月十八日庚辰、京都地震フ、

〔薩戒記〕

六月十八日庚辰、辰刻許地震、

〔滿濟准后日記〕

六月十八日、晴、卯時大地震、水神動、○下略

〔兼宣記〕

應永卅三年六月十九日、昨朝地震、

十九日、晴、參室町殿、昨朝地震占文、雖非重變、御祈禱事、自明日可被始行之

由、可申沙汰云々、

七月十一日、自去月廿日所被始行之地震御祈、今日結願、

九月九日己亥、京都地二回震フ、

〔薩戒記〕

九月九日己亥、今朝地震兩度、

同月二十二日壬子、京都地震強シ、

〔薩戒記〕

廿二日壬子、地震大動、

十月十九日己卯、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十月十九日己卯、卯一刻許地震、

震災豫防調查會報告第四十六號

甲

十一月十一日庚子、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十一月十一日庚子、申始刻地震、

同月二十四日癸丑、京都地震フ、

〔薩戒記〕

廿四日癸丑、地震、

同月二十七日丙辰、京都地震稍、強シ、

〔薩戒記〕

廿六日乙卯、丑終尅〇翌曉ナリ地震大動、

〔滿濟准后日記〕

十一月廿七日、晴、寅半地動、

十二月二十日己卯、京都地震稍、強シ、

〔薩戒記〕

十二月廿日己卯、未終刻地震、

〔滿濟准后日記〕

十二月廿日、晴、大地震、申刻、金翅鳥、動様不快、

同月二十三日壬午、是夜、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

廿三日、晴、今夜亥半地震、

同月二十六日乙酉、是夜、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

廿六日、晴、今夜子半頃地震、天王動、吉動云々、

正長元年九月十八日丁卯、京都地震強ク震フ、

〔滿濟准后日記〕

正長元年九月十八日、今夜子刻大地震以外也、

永享元年三月五日辛亥、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

永享元年三月五日、晴、今日午半地震、

同三年一月十八日甲申、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

永享三年正月十八日、戌初尅地動、金翅鳥動、

〔管見記〕

永享三年正月十八日甲申、天晴、酉下刻地震、

十月二十七日戊午、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

十月廿七日、巳初尅小動、

十一月十二日癸酉、是夜、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

十一月十二日、今夜時地震、帝尺動也、

同四年三月十二日辛未、相摸國鎌倉地震フ、

〔神明鏡〕

永享壬子〇四三月十二日、戌時大地震、〇續本朝通鑑之ニ從フ、

同五年一月二十四日己卯、伊勢、近江二國、地大

ニ震フ、是日、京都モ震ヘリ、

〔看聞御記〕

永享五年正月廿四日、晴、抑酉時大地震以外也、消肝、

〔滿濟准后日記〕

永享五年正月廿四日、晴、申刻大地震、〇中在方卿占文云、

今月廿四日、申刻大地震〇下

廿八日、去廿四日大地震、伊勢國以外、鈴鹿山大石ユリ拔云云、

〔管見記〕

永享五年正月廿四日、申刻地振也、

〔師鄉記〕

永享五年正月廿四日、今日酉刻有大地震、

〔如是院年代記〕

永享五年正月廿四日、大地震、

三月十七日辛未、京都地強ク震フ、續テ數、震フ、

〔看聞御記〕

三月十七日、未初點有大地震、〇中酉刻又有地震、〇中曉又地震、今日晝夜三四度也、有何事乎、

〔師鄉記〕

三月十七日、今日午刻有大地震、

〔管見記〕

三月十七日、抑未刻大地震以外也、被召有盛於仙洞、以四辻宰相中將被尋仰、不知吉凶如何様申上候哉、尤可驚之、

〔滿濟准后日記〕

三月十七日、申初刻大地震、

四月四日、雨陰晴不定如昨天、自日野中納言方以狀令申、

自明日地動御祈可令勤修云々、就度々地震御祈禱事、自明日別可有御祈念候、御結願可爲來十七日候、以此旨同可有御下知醍醐寺之由、被仰下候、可得御

意也、恐々謹言、

卯月四日

兼郷

理性院僧正御坊

五日、地天御祈、八字文殊護摩始行了、

十七日、自去五日勤修地震御祈八字文殊護摩、今曉結願、卷數以日野中納言進之了、

同月二十一日乙亥、京都地震フ、

〔看聞御記〕

廿一日、今日モ小地震、

同月二十六日庚辰、京都地震稍、強シ、

〔滿濟准后日記〕

廿六日、晴、今曉大地震、

同月二十七日辛巳、京都地震フ、

〔看聞御記〕

廿七日、晴、今曉地震、

同月二十八日壬午、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

廿八日、少雨、自己初天晴、巳半地震、動、

四月二十三日丙午、京都地震フ、

〔看聞御記〕

四月廿三日、晴、午刻小地震、龍神動也、

〔滿濟准后日記〕

四月廿三日、午刻地震、今日兩度地震之由被仰、御對面之間

地震了、御祈事如先々可申付、日野中納言可相觸方々云々、

五月二十一日癸酉、鎌倉強震アリ、

〔鎌倉大日記〕

永享五年五月廿一日、地大震、

〔南朝記傳〕

永享五年五月廿一日、午刻大地震、

同月二十二日甲戌、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

五月廿二日、晴、今曉寅刻地震、

日野中納言奉書到來、

今曉地震驚存候、就其御祈禱事、任例可申沙汰仕之由、今朝伺申入了、自來廿五日可有御祈念候、御結願來月三日吉日候、御臺様御祈禱、自同日以來月五日、可有御祈念候、重疊奉存候、旁御祈禱尤可然珍重候、同可有御下知滿寺之旨、可令得御意給候也、恐々謹言、

五月廿二日

兼郷

理性院僧正御坊

廿五日、晴、自今夕爲地震御祈、不動護摩始行、

九月十五日甲午、京都地震フ、

〔看聞御記〕

九月十五日、頭書今夜小地震、火神動也、

同月十六日乙未、相摸、陸奥、甲斐諸國、地大ニ震

ヒ、鎌倉、會津、被害夥シ、是日、京都モ強ク震ヘリ、

〔看聞御記〕

十六日、晴、今夜大地震兩度、帝尺動也、

十月廿六日條、抑關東有不思議之恠異、先大地震、堂舎顛倒、人多死、八幡宮鶴岡金燈爐燒失、全燒云々、又刀禰川逆ニ流云々、凡四箇條有不思議、今一箇條不聞、去夏秋之間事也、

〔滿濟准后日記〕



九月十六日、晴、今夜子刻地動、小

〔鎌倉大日記〕

九月十六日、子刻大地震、夜中三十餘度、築地倒懸、廿日間不止地震、

〔神明鏡〕

永享五年癸丑九月十六日、大地震、鎌倉築地崩、極樂寺塔九輪落、惣唐物共多損、大山二王頸落、前代未聞也、

〔喜連川判鑑〕

永享五年九月十六日、夜大地震、山崩、築地悉ク顛倒、

〔南朝記傳〕

永享五年九月十六日、子刻又大地震、夜中三十餘度、其後廿日アマリ地震不止、○南方紀傳同シ、

〔塔寺八幡宮略記長帳〕

永享五年九月十六日、日本國大地震、相州大山仁王首震落、

遙谷底入、凡神社佛閣、上天公卿民家至迄、家倒山崩、水塞谷

〔此カ〕

埋、死者多、十時會津塔寺邑正八幡宮御宮殿廻廊拜殿寶藏華

表、凡不殘震倒、○會津舊事雜考、會津土直考、並ニ同シ、

〔妙法寺記〕小佐野本、

永享五年九月十五日、夜大地震、

〔編年要略〕

永享四年九月十六日、大地震、山崩、相州大山寺二王頸落他

所、

○妙法寺記、十五日ニ係グ、編年要略、前年ニ係グ、並ニ誤レリ、

同月十九日戌戌、是夜、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

十九日、今夜地震、丑刻歟、

〔薩戒記〕

九月十九日、子終刻地震、

〔看聞御記〕

廿日、晴、今曉大雨、又地震、金翅鳥動也、

○御記、二十日ニ揭グルハ、推歩ノ誤ナラン、

同月二十六日乙巳、是夜、京都地震フ、

〔看聞御記〕

廿六日、今夜又地震、帝尺動也、

十月二十七日丙子、京都地強ク震フ、

〔看聞御記〕

十月廿七日、晴、未刻地震、大動、帝尺動也、

〔滿濟准后日記〕

十月廿七日、申半大地震、○中略、在方卿地動注進、

今月廿七日、未時大地震、月行亢宿、金翅鳥所動○下略

同六年一月十六日乙未、鎌倉強震アリ、

震災豫防調查報告第四十六號

甲

〔神明鏡〕

永享六年<sup>甲寅</sup>正月十六日、夜大地震、

〔續本朝通鑑〕

永享六年正月乙未、鎌倉地大震、

同月二十二日辛丑、京都地震フ、

〔看聞御記〕

永享六年正月廿二日、晴、早旦小地震、

〔滿濟准后日記〕

永享六年正月廿二日、辰時地動、在方卿占文、

今月廿二日、辰時大地震有音、

〔師郷記〕

永享六年正月廿二日、晴、巳刻地震、

二月六日甲寅、是夜、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

二月六日、晴、戌終歟地震、

三月七日乙酉、京都地震フ、

〔看聞御記〕

三月七日、晴、朝小地震、

五月二十九日乙巳、是夜、京都地震稍強シ、

〔滿濟准后日記〕

五月廿九日、晴、丑初刻地動兩度、此邊ハ小動也、京邊以外大地動云々、在方卿勸進注左、

今月廿八日、子刻大地震有音、○占文略ス、

九月二十九日癸卯、京都地震フ、

〔看聞御記〕

九月廿九日、晴、今曉地震、

十月二十六日己巳、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

十月廿六日、晴、卯未刻地震、

十二月一日甲辰、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十二月一日、酉刻地震、

〔薩戒記〕

永享六年十二月朔日甲辰、申始刻地震、

同月十三日丙辰、京都地震フ、

〔薩戒記〕

十三日、申終地震、

同月十四日丁巳、是夜、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十二月十四日、戌刻小地震、

〔薩戒記〕

十二月十四日、戌始剋地震、

同七年一月二十七日庚子、京都地震フ、

〔滿濟准后日記〕

永享七年正月廿七日、晴、地震有音、

六月十三日癸丑、京都地震フ、

〔看聞御記〕

永享七年六月十三日、酉刻小地震、龍神動也、

七月六日丙子、京都地震フ、

〔看聞御記〕

七月六日、晝小地震、火神動也、

是月、京都地震強シ、

〔年代記殘編〕

永享七年七月、大地震、是始三年震、○倭史後編、野史之ニ從フ、

同八年六月十一日乙亥、京都地震フ、

〔看聞御記〕

永享八年六月十一日、晴、辰刻小地震、

七月九日癸卯、陸奥國會津地震強シ、餘震三日ニ

及ベリ、

〔潛龍塔寺八幡宮長帳〕

永享八年七月九日、申刻大地震初、日夜三日也、十六度動也、

○會津舊事雜考、會津土直考、四家合考同シ、後鑑之ニ從フ、

十二月十九日庚辰、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十二月十九日、晴、申刻地震、帝尺動也、

同九年三月二十日庚戌、京都地震フ、

〔看聞御記〕

永享九年三月廿日、晴、朝地震、帝釋動也、

同十年二月九日癸亥、京都地震フ、

〔看聞御記〕

永享十年二月九日、今夜子刻地震、

三月十五日己亥、京都地震フ、

〔看聞御記〕

三月十五日、今曉地震、火神動也、

六月五日戊午、京都地震フ、

〔看聞御記〕

六月五日、雨降、今曉地震、金翅鳥動也、

十二月十八日戊辰、是夜、京都地震フ、

〔管見記〕

永享十年十二月十八日、丑刻許地震、

同月二十八日戌寅、是夜、京都地震稍強シ、

〔看聞御記〕

十二月廿八日、晴、夜子時大地震消肝、

同十二年九月十八日丁巳、陸奥國會津地強ク震

フ、

〔南朝記傳〕

九月十八日、大地震、○南方紀傳同シ、

〔會津舊事雜考〕

九月十八日、大地震、○會津土苴考同シ、

嘉吉二年一月二十一日癸未、京都地震フ、

〔管見記〕

嘉吉二年正月廿一日、霽、辰刻地震、

〔南朝記傳〕

嘉吉二年春正月廿一日、大地震、○南方紀傳、東榮鑑同シ、

〔東寺百合文書〕

嘉吉二年壬戌正月廿九日、去廿一日地震御祈、昨日廿八日ヨリ可有始行由、奉書今日到來、來月四日可有結願云々、於鎮守一七日之間、百部仁王經會治

二月十四日丙午、京都地震フ、

〔管見記〕

二月十四日、晴、今曉地震、

十月二十日丁未、上野國地強ク震フ、

〔新選和漢合圖〕

嘉吉二年壬戌十月廿日、大地震、

同三年一月十一日丁卯、京都地二回震フ、

〔看聞御記〕

嘉吉三年正月十一日、今夜兩度地震、金翅鳥動也、

三月二十一日丁丑、京都地震フ、

〔管見記〕

嘉吉三年三月廿一日、未下刻地震、

六月二十日甲辰、京都地震強シ、

〔管見記〕

六月廿日、霽、巳時地震、頗消魂者也、○續本朝通鑑、續史愚抄、歷朝要紀之ニ從フ、

〔康富記〕

嘉吉三年六月廿七日辛亥、晴、自是日於禁裏被始行御修法、是去廿日大地震、賀安兩家之勘文、御慎之由申之間、爲彼此旁御祈禱被行之、藏人權右中辨俊秀被奉行之、

十月一日壬午、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十月一日、晝地震、天王動也、

十一月八日己未、是夜、京都地震フ、

〔看聞御記〕

十一月八日、子刻小地震、火神動也、

〔管見記〕

十一月八日、亥刻地震、○續史愚抄、歷朝要紀之ニ從フ、

文安元年四月二十七日丙午、是夜、京都地震強シ、

〔康富記〕

文安元年四月廿七日、丙午、晴、今夜亥刻大地震、

〔歷朝要紀〕

○上今年當甲子禮利、况又天告變氣、地頻震勢、咎徵匪一須、恐懼旁

多志、○下略

文安元年九月十一日

十一月二十二日丁酉、是夜、京都地強ク震ヒ、餘

震十二月四日ニ及ベリ、

〔東寺執行日記〕

文安元年十一月廿二日、夜半ニ大地動事、一夜中二十七箇

度、十二月四日マデ動之、○歷朝要紀、續史愚抄、後鑑之ニ從フ、

〔年代記殘編〕

文安元年十一月廿二日、夜大地震動、

同三年二月二十九日丁卯、京都地震フ、

〔師郷記〕

文安三年二月廿九日丁卯、晴、今日申刻地震、

同四年六月二十四日甲申、京都地強ク震フ、

〔南朝記傳〕

文安四年六月廿四日、大地震、○南方紀傳同ジ、

同五年、諸國地震フ、

〔かな年代記〕

文安五年大水、○五月廿二日、七月十九日、地じん、ナラズ、るきれい、ききん、

〔新選和漢合圖〕

文安五年戊辰、洪水、飢饉、地震、

〔會津舊事雜考〕

文安五、大地震、飢饉、疾疫、○會津土直考同ジ、

寶徳元年四月十二日壬戌、山城、大和二國、地大

ニ震ヒ、京都、奈良、多ク其害ヲ被リ、餘震日ヲ涉

レリ、

〔康富記〕

文安六年○寶徳元年四月十二日、朝大地震事、處々破損事、付勘例事、

十七日、地震御祈禱事、○以上二條ハ目錄ナリ、本文ソノ記事ヲ逸セリ、本

震災豫防調査報告第四十六號

甲

四月十三日癸亥、陰晚雨下、今日於連々地震、  
十四日甲子、晴陰、吉田祭延引、

去十日以來、連日地動不休、嵯峨釋迦並五大尊顛倒事、自室  
町殿被遣御使、被檢知云々、齋藤新左衛門尉歟、

神泉苑築地、東寺築地等破損事、被遣兩奉行、矢野長門入道 響田之入道被檢  
地云々、皆依地震儀也、

十五日乙丑、晴、今日又度々地震、

〔東寺執行日記〕

文安六年○寶徳元年四月十二日、辰刻大地震動テ、南大門乾角柱

サケテ落畢、南面築地東へ十一間クヅル、北面八足左右七

八間クヅレテ、蓋モ落也、惣而洛中洛外築地、淀大橋三間落、

桂橋二間落、大地破テ水出デ、嵯峨尺迦ノ御手落、同十八日

マデ晝夜ニ十七八度動也、

〔公卿補任〕

文安六年○寶徳元年四月十二日、大地震、

〔大乘院日記目錄〕

文安六年○寶徳元年四月十二日、大地振、築地悉以崩、東寺大門垣

破損、

〔武家年代記裏書〕

文安六年○寶徳元年四十夜大地震、同十一亦大地震、地裂山崩、京

中所々築地無殘所、其後連日無止、而及十二日、

〔如是院年代記〕

寶徳元年己巳、自四月十日、至六月廿五日大地震、處々築地

破、

〔南朝記傳〕

夏四月十二日ヨリ大地震、○南方紀 傳同ジ

〔年代記殘編〕

夏中大地震動、洛中大家堂塔築地多倒傾落、是依八幡山裂、

〔東寺百合文書〕

神泉苑築地次第、寶徳二年五月 日、一國ニ四丈八尺宛、

門ヨリ北、

管領千時島山殿、五月十 八日ヨリ被始、三箇國

同大夫殿 一箇國

細川殿 三箇國

同讚岐殿 二箇國

同總州 一箇國

同淡路殿 一箇國

同阿波殿 半 國

同和泉守護殿 半 國

門ヨリ南、

武衛

〔康富記目錄〕

四月十七日、地震御祈禱事、

〔祇園社記〕

左辨官

下祇園社

應七日間令轉讀仁王般若經事、

右日來天變告災、地震作害、多以疫癘之苦、因以飢饉之憂、非仰佛神之仁慈者、爭救都鄙之厄難乎、權大納言兼太宰權帥藤原朝臣實雅宣、奉

勅於彼社可轉讀仁王般若經、早凝七日之懇精、宜得衆人之延命、其施供料、依例行之者、社宜承知、依宣行之、

文安六年六月十二日

大史小槻宿禰判

右中辨藤原朝臣判

〔東寺百合文書〕

天變并地妖御愼、室町殿御祈事、自來十四日一七箇日、可被抽懇念之由、護持僧并東寺及御門徒中、可被觸仰之旨、被仰下候、此等趣可得御意候也、恐々謹言、

〔廣橋〕

守光

九月十一日  
マ、  
兒御中

〔大乘院日記目錄〕

文安六年七月廿八日、改元寶德元年、依去年七月洪水、并今年地震疫病飢饉也、

五月十二日辛卯、奈良地震強シ、

〔大乘院日記目錄〕

五月十二日、大地震、

是夏、對馬國地震フ、

〔對州編年略〕

寶德元年己巳、夏地震、

八月十二日庚申、京都地二回震フ、

〔康富記〕

八月十二日、庚申、晴、晚并入夜地震、

同月十九日丁卯、京都地震フ、

〔康富記〕

十九日、丁卯、晴、地震、

九月十一日戊子、是夜、京都地震フ、

〔康富記〕

九月十一日、戊子、今夜地震也、

同月十八日乙未、京都地震フ、

〔康富記〕

十八日、乙未、晴、入夜雨下、地震、

十一月十五日庚申、是夜、京都地震フ、

〔康富記〕

十一月十五日、庚申、晴、今夜地震、

同二年七月五日丁未、是夜、京都地震フ、

震災豫防調査報告第四十六號

甲

〔康富記〕

寶德二年七月五日、丁未、晴、今晚地震、夜半以後雨下、  
同月二十七日己巳、京都地震フ、

〔康富記〕

廿八日、庚午、昨○二十今○二十八日地震、

同月二十八日庚午、京都地震フ、

〔康富記〕

廿八日、庚午、昨○廿今○廿八日地震

同三年七月三日己亥、京都地震屢震フ

〔康富記〕

寶德三年七月三日、己亥、是日度々地震、

九月三日戊戌、是夕、京都地震フ、

〔康富記〕

九月三日、戊戌、晴、今夕地震、

十一月十八日癸丑、是夜、京部地震フ、

〔康富記〕

十一月十八日、癸丑、雨下、戌刻地震、入夜雨晴矣、

享德元年八月十三日癸酉、京都地震フ、

〔東寺執行日記〕

享德元年八月十三日、未刻大地震動、

同三年十一月二十三日庚午、上野國地強ク震フ、

〔新選和漢合圖〕

享德三年甲戌十一月廿三日、大地震、

十二月十日丁亥、相摸國鎌倉、地強ク震フ、

〔南朝記傳〕

享德三年十二月十日、大地震、○南方紀傳同ジ

〔鎌倉大日記〕

享德三年十二月十日、大地震、

〔東榮鑑〕

寶德三年辛未十二月大十日、大地震、  
○東榮鑑、寶德ニ作ルハ誤レリ、

康正元年十二月二十九日庚午、京都強震アリ、

〔假名年代記〕

康正元年乙亥十二月晦日、夜大地じん、

〔南朝記傳〕

康正元年十二月晦日ノ夜、大地震、

〔新選和漢合圖朱書〕

康正元年乙亥十一月晦日、夜大地震、

○コノ地震、續本朝通鑑ニ二十八日ニ係ゲシハ、何ニ據リシヲ知ラズ、和漢合圖朱書ノ十一月ニ作ルハ蓋、非ナラン、



同二年十一月二十六日壬辰、京都地二回震フ、明日又震フ、

〔師鄉記〕

康正二年十一月廿六日壬辰、今日寅申刻兩度地震、

廿七日癸巳、戌刻地震、

〔東寺百合文書〕

天變地震、並南方凶徒退治御祈事、可抽精誠之由、可令下知滿寺給者、天氣如此、仍上啓如件、

康正二

十二月五日

謹上 東寺長者僧正御房

左中辨經茂

長祿二年閏一月三日壬辰、是夜、京都地震強シ、

〔長祿二年記〕

閏正月三日壬辰、丑時大地震、

二月十五日癸酉、京都地震強シ、

〔長祿二年記〕

二月十五日癸酉、未終歟大地震、

七月二十四日己酉、京都地震フ、

〔長祿二年記〕

七月廿四日己酉、未刻地震、

同三年一月十三日丁酉、京都地震フ、

〔碧山日錄〕

長祿三年正月十三日丁酉、午而地震、

寬正元年二月九日丁巳、京都地震強シ、是日、奈良モ震ヘリ、

〔碧山日錄〕

〔長祿四年〕

長祿四年○寬正元年 二月九日丁巳、亥而地大震、

〔蔭涼軒日錄〕

長祿四年○寬正元年 二月九日、酉刻地震、

〔大乘院寺社雜事記〕

長祿四年○寬正元年 二月九日、地振、金翅鳥動、

〔武家年代記裏書〕

長祿四年○寬正元年 二、九、戌刻大地震、

〔天地根元圖〕

寬正元年二月、大地震、

同月十日戊午、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

十日地振、龍神動、

同月十九日丁卯、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

震災豫防調查會報告第四十六號

甲

十九日、振動、

同月二十一日己巳、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

廿一日、地振、

五月二十五日辛丑、京都地強ク震フ、

〔武家年代記裏書〕

長祿四年○寬正元年五、廿五、午刻大地震、

〔祇園社記〕

明後日、十日 於祇園社爲地震御祈禱、依勅可被參向奉幣使云々、任先例司令

下知執行願宥給之由、御氣色所候也恐々謹言、

六月九日

法印□□

祇園別當僧都御房

七月十八日壬辰、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

七月十八日、地震午刻、

〔臥雲日件錄〕

寬正元年七月十八日、今日又小地震、

八月七日辛亥、是夜、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

八月七日、地震、戌刻、

同月十五日己未、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

十五日、卯刻地震、

九月五日戊寅、是夜、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

九月五日、地震、戌刻也、

同月二十四日丁酉、是夜、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

廿四日、地震、少、子

同月二十六日己亥、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

廿六日、地振、辰刻、

閏九月二十三日丙寅、是夜、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

閏九月廿三日、地震、戌刻、

同月二十四日丁卯、是夜、京都地震フ、

〔碧山日錄〕

閏九月廿四日丁卯、戌而地震、

同月二十六日己巳、京都地震フ、

〔長祿四年記〕

廿六日、地震、午刻、

十月六日戊寅、京都地震強シ、

〔長祿四年記〕

十月六日、大地震、午刻也、

同二年十一月三十日丙寅、京都地震フ、

〔續史愚抄〕

寛正二年十一月卅日丙寅、大地震、有陰陽寮勘文、管見記、

○史料編纂掛架藏ノ管見記、是年關ケタリ、

同五年四月七日庚寅、京都地震強シ、

〔糺河原猿樂記〕前田侯爵藏本

四月七日、二日目山姥ノ中半ニ、大地震有、公方様ヨリ博士

ヲ召テ御尋アリ、博士云、時節ノ廻リナリ、更ニ猿樂ノ故ナ

ラズト考申ニ付、次々能アリ、

同六年六月二日戊寅、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

寛正六年六月二日、地振、龍神振、

十月八日壬午、是夜、京都地震フ、

〔親元日記〕

寛正六年十月八日壬午、曇、夜地震、

文正元年閏二月十二日甲寅、是夜、京都地震フ、

〔後知足院誌〕

寛正七年○文正元年閏二月十三日、去夜子剋許地震云々、

四月六日丁未、京都地震強ク震フ、

〔後法興院記〕

文正元年四月六日、丁未、酉刻終有大地震、可恐、

〔大乘院寺社雜事記〕

文正元年四月六日、戌刻大地震動、天滿社石燈籠顛倒、糺御

社石燈籠同顛倒云々、

同月二十五日丙寅、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

廿五日丙寅、戌刻許地震、

同月二十六日丁卯、京都地震フ、

〔後法興院記〕

廿六日丁卯、自早旦大風吹、時々小雨灑、午刻以後止、酉刻地

震、

九月二十二日辛卯、京都地震フ、

〔後法興院記〕

九月廿二日辛卯、晴、午刻地震、

十二月二十九日丙寅、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

十二月廿九日、(頭書)亥刻地震、

〔かな年代記〕

文正元年丙戌十二月廿九日、大地震、

〔新選和漢合圖〕

文正元年丙戌十二月廿九日、大地震、

同月三十日丁卯、京都地震フ、

〔後法興院記〕

卅日丁卯、晴陰雪霰紛々風吹、辰刻地震、

應仁元年一月一日戊辰、奈良地震、震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文正二年○應仁元年正月一日、後夜時分ヨリ大雪、地震及度々、當

山動云々、

七日、元日八幡御社振動、棟瓦落云々、

二月二十七日癸亥、是夜、京都、奈良地震フ、

〔後法興院記〕

應仁元年二月廿七日癸亥、及半更地大震、

〔大乘院寺社雜事記〕

應仁元年二月廿七日、夜地震、

六月二日丙申、京都地震フ、

〔後法興院記〕

六月二日丙申、未刻許地震、

九月二十日癸未、京都地震フ、

〔後法興院記〕

九月廿日癸未、午刻許地震、

同月二十二日乙酉、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

廿二日乙酉、戌刻終地震、

十一月八日庚午、京都地震フ、

〔後法興院記〕

十一月八日庚午、巳刻許地震、

十二月二十六日戊午、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

十二月廿六日戊午、丑刻許兩三箇度有動搖之儀、地震、

同二年一月二十日辛巳、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

應仁二年正月廿日辛巳、戌終地震、

二月六日丁酉、京都地震強シ、

〔後知足院記〕

應仁二年二月六日、去曉寅刻計歎地大震、

五月五日甲子、京都地震フ、

〔後法興院記〕

五月五日甲子、申刻許地震、

六月二十一日己酉、京都地震フ、

〔後法興院記〕

六月廿一日己酉、午刻終地震、

十月十八日甲辰、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

十月十八日甲辰、亥刻地震、

〔碧山日錄〕

應仁二年十月十八日甲辰、亥而地震、

文明二年四月十八日丙寅、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明二年四月十八日、地震、

同三年一月七日庚辰、奈良地強ク震フ、是日、京都

モ亦震フ、明日奈良又震フ、

〔親長卿記〕

文明三年正月七日、晴、地震、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明三年正月七日、大地振、後又小振、

八日、小地振兩度、

二月六日、正月七日就地振御祈禱御教書、去月晦日寺務ニ到來云々、學侶并  
七大寺別當方、被仰遣之、

二月三十日癸酉、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

二月晦日、雨下、地振、

三月五日戊寅、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

三月五日、地振、

五月十四日丙戌、京都地震強シ、

〔親長卿記〕

五月十四日、雨下、今日地震大動也、

十七日、晴、地震、新大納言來、地震御祈事、政顯公家御祈事申沙汰也、○下  
略

同月十七日己丑、京都又震フ、

〔親長卿記〕

十七日、晴、地震、

同七年一月二日壬子、是夜、京都地震フ、

〔親長卿記〕

文明七年正月二日、今日戌刻有地震、小動、

二月八日戊子、是夜、京都地強ク震フ、

文明七年、八年、九年、十一年

〔親長卿記〕

二月八日、晴、入夜亥刻許地震、大動、

〔如是院年代記〕

文明七年乙未二月八日、夜子刻許大地震、

四月十六日甲午、陸奧國會津、地震強シ、

〔塔寺八幡宮略記長帳〕

文明七年乙未四月十六日、大地震、○會津舊事  
雜考同シ、

十月六日壬午、會津地震フ、

〔塔寺八幡宮略記長帳〕

十月六日、會津地震、

同八年四月十七日庚寅、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明八年四月十七日、小地振、

六月十六日戊子、是夜、京都地震フ、

〔親長卿記〕

文明八年六月十六日、晴、戌刻地震、鳴動三  
箇度、

〔歷代皇紀〕

文明八年六月十六日、戌刻地震、鳴動三箇度、

同九年一月四日癸卯、京都地震フ、

〔親長卿記〕

文明九年正月四日、晴、今朝地震、

九月二十二日丙戌、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明九年九月廿二日、地振至、

十一月六日庚午、京都地震稍強シ、

〔實隆公記〕

文明九年十一月六日庚午、晴、曉天有地震、動甚、

〔親長卿記〕

十一月六日、晴、寅刻有大地震、

〔長興記〕

文明九年十一月六日庚午、晴、曉天有地震、動甚、

同月九日癸酉、是夜、京都地震フ、

〔實隆公記〕

九日、雨降、戌下刻又有地動、

〔親長卿記〕

九日、雨下、亥刻許有地震、大動、

同十一年四月三日己丑、京都地震フ、

〔後法興院記〕

文明十一年四月三日、己、卯刻地震、

九月三日丙辰、會津地強ク震ヒ、餘震十日ニ及ベリ、

〔塔寺八幡宮長帳續〕

文明十一年九月三日ヨリ十日迄、大地震、

同十三年二月三日戊申、京都地震フ、

〔後法興院記〕

文明十三年二月三日、戊申、午刻地震、

三月十八日壬辰、奈良地震フ、明夜又ニ二回震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明十三年三月廿日、夜前地振兩度、大動也、龍神動也、

十八日、地振、同龍神動也、不吉也、

七月十七日庚寅、京都、奈良地震フ、

〔後法興院記〕

七月十七日、庚寅、陰時々小雨下、酉刻地震、自晚景甚雨下、終

夜猶不止、

〔大乘院寺社雜事記〕

七月十七日、地震兩度、龍神動、不吉也、

同十四年五月七日己亥、京都、奈良地震フ、

〔親長卿記〕

文明十四年五月七日、晴、今日有地震、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明十四年五月七日、地振、金翅鳥動、不吉、

閏七月十六日癸丑、京都、奈良地各、震フ、

〔後法興院記〕

文明十四年閏七月十六日、癸丑、巳刻地震、

〔大乘院寺社雜事記〕

閏七月十六日、夜地振、龍神動、

十月二十九日甲午、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

十月廿九日、曉振動、龍神動也、不吉云々、

十二月三十日甲午、奈良地震強シ、

〔大乘院寺社雜事記〕

十二月卅日、大地振、火神動、卯刻、

同十六年三月一日戊子、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明十六年二月朔日、戊子、地振了、

八月二十日甲戌、奈良地ニ二回震フ、

震災豫防調査報告第四十六號

甲

〔大乘院寺社雜事記〕

八月二十日、地振兩度、

同十七年十二月十二日己丑、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明十七年十二月十二日、地振、帝尺動、吉、但大兵亂、

同月十三日庚寅、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

十三日、地振、金シツ鳥動、不吉、大兵亂、

同十八年四月二十五日庚子、奈良地震強シ、是

日、京都モ震ヘリ、

〔後法興院記〕

文明十八年四月廿五日、庚子巳刻地震、

〔大乘院寺社雜事記〕

文明十八年四月廿五日、朝大地震、雨下、

九月十日壬子、京都地震フ、

〔實隆公記〕

文明十八年九月十日、壬子晴、及曉天有地震、今夜當番、皆參

候黒戸、

同月二十一日癸亥、是夜、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

九月廿一日、夜地震、

延徳元年一月二十三日壬午、是夜、京都地震フ、

明夜又震フ、

〔宣胤卿記〕

長享三年○延徳元年正月廿四日、癸未晴、去夜地搖、

〔實隆公記〕

長享三年○延徳元年正月廿四日癸未、今夜地震有聲、昨夜亦如此

云々、但不及聞、

四月二十日戊申、陸奥國會津、地震強シ、

〔塔寺八幡宮長帳〕

延徳元年四月廿日、大地震、

七月二十二日戊寅、京都、奈良地震フ、京都稍、強

シ、

〔御湯殿上日記〕

延徳元年七月廿三日、夕だちして夜部四の時分にちしんおび

たぶしうゆる、せんもんまいる、

〔親長卿記〕

延徳元年七月廿二日、晴、入夜子刻有地震、大動

〔實隆公記〕



七月廿二日戊寅、天晴、入夜地震、頗有其聲、可慎々々、

〔大乘院寺社雜事記〕

延德元年七月廿二日、夜地振、金翅鳥動、

同月二十五日辛巳、京都地震強シ、

〔親長卿記〕

廿五日、晴、今日地震大動、

八月六日壬辰、奈良地震フ、

〔大乘院寺社雜事記〕

八月六日、地振、

同月七日癸巳、京都地震強シ、

〔御湯殿上日記〕

八月七日、ひるのち大ぢしんゆる、

〔後法興院記〕

延德元年八月七日、癸巳、午刻大地震、兩度、

〔宣胤卿記〕

八月七日癸巳、晴、參内、今日月次和漢聯句御會也、御會半有

地震、

〔實隆公記〕

八月七日癸巳、抑今日午刻地震有其聲、移時、諸人消肝了、

同三年二月二日己酉、京都、奈良地震フ、

〔後法興院記〕

延德三年二月二日、酉刻終兩度地震、

〔大乘院寺社雜事記〕

延德三年二月二日、地振、

八月十三日戊午、是夜、京都地震フ、

〔後法興院記〕

八月十四日戊午、去夜戌刻地震云々、

大日本地震史料 卷之三 終